

# 社会臨床ニュース

第 106 号

2021 年 10 月 1 日

発行：日本社会臨床学会 事務局〒113-0021 東京都文京区本駒込 5-46-10 子問研

e-mail: shakai.rinsho@gmail.com

ご挨拶／もうダメか？ お手上げる者この指止まれ

—お楽しみはこれから・か？

日本社会臨床学会第 XV 期運営委員長 広瀬隆士

(現状)

コロナ禍の中、みなさまいかがお過ごしでしょうか？ 私自身は今、トンデモナイ状況下にトンデモナイ役目を引き受け、これぞトンデモ火に入る夏の虫かと怯えています。いわば難破船の沈没寸前にわざわざ乗り込み、その割には SOS の悲鳴を上げ、駆けつけてくれた乗組員たち(太字)が、共に出航してくれることになりました。この船は何処へ行くのでしょうか？

実はコロナ感染(重症)やワクチン被害が身近に感じられる事態が実際に起きて、出航の汽笛(=このニュースの発行)も遅れました。今から汽笛を鳴らしますが、燃料計(自己資金)はすぐにゼロを指しかねません。生身の人間が溺れていれば、助ける価値の有無など問うべくもなく、まずは浮き輪の出番でしょう。この船からの第一声は税務署の如く、会費納入やカンパ・入会のお願いです。人手も学会財政も本当に逼迫しています。

(これまで)

自己紹介が遅れましたが、私は税務署員ではありません。日本社会臨床学会(社臨)との出会いは、1985年に就職した東京足立病院心理福祉課の課長・赤松晶子さんとのご縁から。

この時はまだ日本臨床心理学会（日臨心）でしたが、勧められるまま入会。その前年に宇都宮病院事件が発覚し、87年に精神衛生法が精神保健法に改訂という時代でした。そこから心理士の国家資格化への賛否をめぐり、否とした半数が93年に社臨を創設。その分裂と「転居」も赤松さんと共に歩んだのが、社臨との二度目の縁となりました。

話が前後しますが、職場は86年に藤沢の三吉クリニック相談室へ移り、そこでは通信制高校教員やら尋常小学校中退の反戦・反骨じいさんらと、不登校の居場所・駆け込み寺の如き「校害 TelTel 運動会」というユニークな活動に合流しました。その延長線上に、不登校時代の中2から保坂展人さん（内申書裁判原告・現世田谷区長）らの「学校解放新聞」や原発反対デモに合流し編集者となられた伊藤書佳さんとの出会いがあります。本学会には既にシンポジストとして登場頂いています。

社臨への私からの参加歴は、精神医療や教育、労働に関わる制度・現場への疑義。そこから生じる諸々の困難や被害、貧困やトラウマなど、それらが自己（家族）責任や適応訓練、心理治療や薬漬けに至る対策群に対して、生活・制度と臨床との生々しい悪循環をひも解き、問い返していく作業でした。

今年3月までの35年間、このクリニック受診者の受診や服薬との格闘から学び、精神保健福祉法（精保法）といった国策（パラダイム）を体現する資格・専門性には馴染めないまま定年退職を迎えました。収入にならない私の奔放な働き方を、院長の三吉譲さんがよく我慢してくれたと感謝しています。それ以上に、受診された方々に頭が下がります。

14期から乗船の生命倫理研究者・茂木毅さん（元は日本医師会事務局で障害者団体等からの抗議受付役でした）とは、そこを基点としたつながりです。社臨から刊行された社会臨床シリーズⅠ「開かれた病への模索」（95年・影書房）や「カウンセリング・幻想と現実」（2000年・現代書館）への寄稿も、このクリニックからの発信でした。あるいは、松山の笠陽一郎医師が「ごかい」や「前進友の会」など「キーサン」患者会（「こんな社会で狂ったことに誇りを！」）とせめぎ合いつつも、ネット上から患者・家族と共に歩んだ「精神科

セカンドオピニオン」(2010年・シーニュ参照)の実践。その仕掛け人であった元スーパーコンピューター研究者の中川貴之さんや、今期駆けつけてくれた「若手」乗組員のホープ・山田悠平さん(精神障害当事者として社会活動中)、土田麻子さん(会社員)との出会いもまたそこから。頭が下がります。

他方、2018年に藤沢の遊行寺で文化人類学者の松嶋健さん、歴史学者の兵頭晶子さん、三吉医師とも共に開催できた「精神医療とはそもそも何か・それは今何なのか」(第26回総会シンポⅡ)の会場では、看護学が専門の榊恵子さん、社会福祉学が専門の松木宏史さんも初めてご来場下さり、先の第29回総会を機に、乗組員室に合流頂きました。研究者としてはもう一人、古参の「ルンペン社会学者」(敬意を籠めての愛称)竹村洋介さんも居残ってくれています。障害者・生活者・臨床家・研究者(教員)・旅人他諸々の乗合船です。

社臨ビギナー中心の15期ですので、13・14期運営委員長の古谷一寿さん、林延哉さんや、学会発足以来ずっと「どの子ども地域の学校で!」の子問研(子供問題研究会・篠原睦治代表)を間借りし事務局を担ってきた戸恒香苗さん、日臨心時代からの重鎮・根本俊雄さん(遺憾ながら今期立候補は辞退)にもお力添えの約束を頂いています。が、学会発足以来、社臨構築を牽引した幾人もの「長老」たちの姿や声に触れる機会は、コロナ渦も重なる中、今はいよいよ薄れ、本学会は存続の危機にあります。

(これから)

となれば、ピンチをチャンスに、これまでの社臨の「前例」の殻を破り、オンライン学習会や「外部」との交流チャンネルへの出立等、大胆なチャレンジを開始すべきでしょう(☆本ニュース p15 参照)。時流を見ても、日臨心からの分裂時代には、精保法体制づくり 24団体の護送船団(精従懇)やら「こころの時代ブーム」など、これまでの社臨の歩みにとっては逆風が吹き荒れていました。

そこから29年、今も相変わらずの長期入院や薬漬け、電気ショック、世界最多の身体拘

束率（米国の 266 倍、豪州の 599 倍）を拡大し続けるこの国の精保法。そのパラダイムは「合法」へのマネージメントも担う精神保健指定医を頂点に、臨床の「資格・専門家」が「人権」を包囲する巨大ピラミッドの増殖そのもの。しかも医師・看護師数は一般科の 3 分の 1～2 で可とする精神科特例はそのまま。事故が起きても「高齢者・障害者虐待防止法」は医療を対象外とするなど…。今多くの方々がそれらに翻弄され、絶望し、他方、その絶望こそが、昨年の神奈川精神医療人権センター（KP）の発足等、新たな繋がり、希望をもたらし始めています（同センターホームページ [kp-jinken.org](http://kp-jinken.org) 参照）。

翻って精保法パラダイムを教育現場へも接続してしまう公認心理師国家資格化にも右往左往しつつ、かえって関連諸学会内部からさえ、「主治医の指示」要件への抗議や、臨床心理学発祥の根本から、その学問・臨床の偏狭さへの疑義・問題化などもようやく開始されたようです。気象・ウイルス・寄生虫を含む地球生命環境や政治・社会的、あるいは宇宙・人類学視点からの新たな視座への転換なども今、模索され始めているかに見えます。「人間」を包帯でぐるぐる巻きにし、生き埋めにしてきたピラミッドシステムからの転換が、今求められているのでしょうか。

社臨は、時流に乗り遅れたシンガリと見えつつ、新たな時代を切り拓こうともがく前衛を歩んできたのかもしれませんが。ところで、驚いたことに、今年 4 月発刊の「臨床心理学研究」（日臨心発行第 58 巻 2 号）には、篠原睦治著「津久井やまゆり園事件の死刑囚植松聖の死刑判決に向き合って」が掲載（子問研「ゆきわたり」から転載）されています。また、日臨心の新しい代表・滝野功久（いさく）さんから私へ、突然の個人的な電話（雑談）が最近あり、29 年前の「社会臨床雑誌」第 1 巻 2 号から 4 回連載された篠原論文「日本臨床心理学会改革 20 年を振り返る」（社臨ホームページから全文読めます）を、今こそ両学会共通の歴史として読み合いたい、できれば「社臨の皆さんとオンラインでコラボできないか？」とのメッセージが寄せられてきています（どうでしょう？）。

他学会でも、日本心理臨床学会（日心臨）の大会では、東畑開人さんが連日脚光を浴び、

例えば、シンポ「精神分析の社会論的展開—ポストこころの時代の歩き方」などに大変な視聴者が集まったようです。東畑さんの著書も扱う医学書院・宣伝パンフには、「科学性」「専門性」「主体性」といったことだけでは語りきれない地点から《ケア》の世界を探ります」とのキャッチコピーがあり、社臨の積年の歩みとも入念に照らし合わせてみたくなる標語が出ています。

定年後の私は、地域の生活介護施設でのパートと、上記 KP での相談業務委託を掛けもちしています。前者では、精神科長期入院・身体拘束・電気ショックなどの果てにグループホームやアパートで暮らすメンバーを送迎し、昼食を共にし、カラオケや卓球や不参加自由のレクメニューの他、ほぼゴロゴロと過ごしています。メンバーにここへ来る理由を尋ねると「手作りの昼食がおいしい」が大半。到着早々昼寝をし昼食後に帰る方もあり、好きな時だけ「自宅」風に過ごせて「独りじゃない」（ゆえにトラブルも発生する）場所。魅力あるランチや喫茶こそが目玉のここも今、「ケア」を問うシンガリ、あるいは奇妙な先端かもしれません。

巷には「ヤングケアラー」といった言葉も飛び交う昨今ですが、精神病院を「脱制度化」してきたイタリアでは、障害児を養護学校へ分けずに共にあり続けてきた歴史の蓄積こそが、そこでの積年の「ふつう」のあり方を耕してきたのかもしれませんが。あるいは近年話題のオープンダイアログ（フィンランドの一部の公的制度）でも、「統合失調症」診断・隔離が社会から消えてゆくという「臨床の成果」以前に、極度の育児困難世帯であってもなくても、子育てを家族責任ばかりに帰さない「ネウボラ」政策の浸透や、大学までの学費無償などの国策も無関係ではないでしょう。最近看護領域でも取り沙汰される「トラウマインフォームドアプローチ」などについても、同様の問いが浮かびます。

いずれにしても、小手先の良心的育児・教育や臨床技法・倫理などの中に矮小化・対象化される次元の「人権」のみでは誤魔化せない何かを手探りし、その背景を忌憚なく問題化しつつ対話し合える社臨という場所の芸風、その「生き立ち」にも、私は今さらながらに思い

を馳せています。

上記は私をサンプルにした、出航前の汽笛のほんの一例に過ぎませんが、新旧会員の皆さまからは、この難破船が今にも沈み、まるで海底・地獄巡りになろうとも、どうぞそれぞれの息吹からの探索をここに寄せ合い、喜怒哀楽の糸を紡ぎ合えたら幸いです。もちろん、やがて浮かび上るか否か不明の潜水艦ではあっても、燃料は必須です。新たな運営委員8名ともども、来年には共同代表制なども志向し、規約の改訂も視野に入れ歩み合えたらと願っています。昨今の時代と共に、一寸先は闇でしょうが、「遠い夜明け」への旅路も楽しみに、どうぞよろしくお付き合い下さい。

## 新運営委員の役割分担について

2021年7月11日（日）に最初の第XV期運営委員会会議をオンラインで開催しました。そこで運営委員の役割を以下のように話し合いました。初めてのことはばかりで至らない点があるかと思いますが、精いっぱい努めますのでどうぞよろしくお願いいたします。

運営委員長：広瀬隆士      副委員長：榊恵子

事務局長：松木宏史

- ・会計・郵便物管理／伊藤書佳
- ・オンライン担当／山田悠平、中川貴之、土田麻子

編集委員長：伊藤書佳

- ・編集幹事／松木宏史、中川貴之、茂木毅、土田麻子、竹村洋介

## 日本社会臨床学会第29回総会を終えて

総会実行委員長 榊 恵子

日本社会臨床学会第29回総会は、2021年6月19日（土）、20日（日）に、東京北区の滝野川会館で開催されました。参加者数は19日24名、20日は18名となりました。

新型コロナウイルス感染症拡大における緊急事態宣言下、直前まで、開催の可否、参加者数制限など問題が山積し、会員の皆様にも葉書で直前に事前参加募集を行わせて頂き、会場でのソーシャルディスタンス確保の対策を行うなど、感染予防に配慮しながらの開催となりました。

こうしたきっかけが、逆に、本学会で初めて、オンラインによるハイブリッド方式を導入する流れを作り、総会の一部及び2日目の講演は、会館の外からの参加を可能にいたしました。

第1日目午前には、定期総会が行われ、第XIV期総括、会計報告の後、運営委員の改選が実施され、第XV期運営委員が承認されました。

午後のシンポジウムは「子宮頸がんワクチン（HPV ワクチン）接種被害を考えるーこの薬害事件の全容解明と被害者支援の充実に向けてー」の題目のもと、3名の発題者、黒崎未知子さん（全国子宮頸がんワクチン接種被害者連絡会群馬県支部会員）、隈本邦彦さん（江戸川大学教授、名古屋大学客員教授、元NHK記者）、戸田善規さん（総務省地域力創造カードバイザー、元兵庫県多可町町長）にご登壇頂きました。会場内の壁にポスター貼付や展示を頂き、休憩時間には被害者の方々の思いや考えに触れることができ、長く続く苦悩や問題に継続的に関わっていくことの重要性について強く感じた次第です。コメンテーターに、作家の田中康夫さんをお迎えし、井上芳保さん（運営委員）、岩崎陽子さん（会員）の司会のもと、興味深いコメントと会場からの意見を交え貴重な時間となりました。

第2日目午前は、記念講演として「『東京オリンピック』と反オリンピック」と題され、名古屋市小学校非常勤講師の岡崎勝さんにお話し頂きました。岡崎さんは、「お・は」編集

人、「ち・お」編集協力人、高度産業社会批判社・自由すぽ一つ研究所主宰とご活躍です。そうした幅広いご活動の中から、2020年オリ・パラ問題を考える枠組みとして、私たちがメディアに触れる現象レベルの問題と、その根源にある問題の密接に関連している仕組みを取り上げて下さり、時宜を得たご講演に会場は目を離せない1時間半となりました。

午後はフリートーク交流会が実施されました。「津久井やまゆり園事件 私(たち)は何を感じ、何を語ろうとしたのか、口にできなかったのか」の題で、会場に椅子の輪を円形に作り、参加者個々の自己紹介のあと、自由に語り合う会でした。ここでも、即座の設定ではありませんでしたが、自粛状況の中、どうしても会場参加ができなかった会員の皆様にオンライン参加を頂く試みがなされ、行動制限下の不自由さの中の自由さ作りの芽生えを感じました。

何を感じたのか、被害者や家族の皆様の思い、その背景の福祉の実態や働く人々の現状や嘆きについて語りが続き、一人一人の重い語りを共有させて頂く時間となりました。コロナ禍の中で感染蔓延の点を心配し、ギリギリまで検討して実施した対面交流会でしたが、改めて場を共にし、触れ合うことの大切さを実感した企画でもあったと思います。

今回第29回総会が、2020年度第28回総会のように開催中止になる場合も鑑み、社会臨床雑誌第28巻3号には、学会シンポジウムや講演内容が掲載されています。是非ご覧下さいようお願いいたします。また、実行委員の皆様には、大変なご努力を頂き無事に終了しましたことにつき、この場をお借りし感謝申し上げます。

会員の皆様と、今後とも、様々な社会問題につき、ともに考えともに学会を造って行きたい、ご協力のほど、宜しく願い申し上げます。



# 日本社会臨床学会第 XIV 期運営委員会第 2 年度会計報告

第 XIV 期第 2 年度（2020 年 04 月 01 日～2021 年 03 月 31 日）の

収入と支出の決算について

## 収入について

第 XIV 期第 2 年度会計は、繰越金が 408,059 円で、黒字から出発した。

当該年度会費は昨年予算の 80%が納入されているが、今年度は 71%と低く 630,000 円、また過年度会費は予算の 48%、96,000 円となった。

購読費は 7 大学（北星学園、慶応大学、札幌医科大学、和光学園、明治学院、文教大学、大阪大谷大学）が当該年度、1 大学（東京大学）が過年度を納入し、計 48,000 円となっている。

丸善は納本単位での支払いであり、27 巻 3 号、28 巻 1 号の納入 4,000 円があり、雑誌売り上げの項目に入っている。昨年は、雑誌バックナンバーを含めて 50 万円近くの雑誌売り上げがあったが、今年度の雑誌売り上げは上記以外無しであった。

以上、今年度は会費納入が低調であったこと（昨年に比べ、会費納入 20 万円少なかった）、雑誌売り上げ、カンパ・雑収入が、ほとんどなかったことが際立った点として挙げられる。

## 支出について

雑誌印刷費の予算は 900,000 円で、28 巻 1 号は 324,060 円、28 巻 2 号は 278,850 円、発行が遅れている 28 巻 3 号は 387,400 円で合計が約 99 万円、予算を 9 万円オーバーした。

また、クロネコ DM 便の郵送料が 2020 年 8 月から、1 通 84 円から 167 円に値上げされ、一回の郵送料が約 18,000 円から約 34,000 円と 2 倍近くなった。そのため雑誌郵送料が予算 55,000 円を大幅に超え、約 124,000 円となった。

今期会計の赤字は、雑誌印刷費と雑誌郵送料の金額が予算をそれぞれにオーバーしたことが大きな要因である。

ニュースについては、今期は 103 号から 105 号の発行となったが、103 号の郵送費は約 18,000 円、104 号の郵送費（28 巻 2 号に同封）はゼロであった。105 号（2021 年 05 月 22 日発行）は、郵送費約 34,000 円であった。結果的にだが、ニュース発行費用は何とか予算内におさまっている。

事務局運営費は、予算では 2,000 円であったが、コロナ禍で第 28 回総会（2020 年 06 月 06・07 日開催予定であった）を中止せざるを得ず、その旨会員には葉書により連絡を行った。また、第 28 回総会内で予定されていた第 28 回定期総会を 2020 年 09 月 13 日にオンラインで開催したが、この通知も会員に対して葉書で行った。この二度の連絡のために、計 25,200 円(63 円×400 枚)の葉書代がかかることになった。

一方、コロナ禍のため第 28 回総会が中止となり、総会損失の補填はなかった。学習会も今期は開催していないため学習会補填も 0 円である。

収入・支出の実績を合わせてみると、会費納入額が当初見込みよりも約 30 万円少なく、一方、雑誌発行費用・事務局運営費で約 19 万円の予算超過を起こしている。

事務局運営費についてはコロナ禍での予算上想定外の支出であり、また、会費納入額が予算を下回ったことの一端は、やはりコロナ禍で総会が開催できなかったことも関連していると考えられる。

しかし、雑誌印刷費のみを見ても予算を 9 万円強超過しており、予算立案時には想定していなかった郵送費の値上げ分の予算超過額約 7 万円を上回っている。この点については、雑誌の掲載記事のページ数の管理の適正化が求められる部分として、次期に申し送るべき課題である。

収入が見込みよりも約 30 万円少なく、一方の支出では約 19 万円の予算超過を起こしている。前期からの繰越金約 36 万円を宛てても約 13 万円の赤字のところを、運営会議のオンライン化による交通費支出が削減されたことや、総会中止によって総会損失補填がなかったというコロナ禍による「想定外の」経費削減分に助けられ、結果的に 48,468 円の赤字となっ

たのが、第 XIV 期第 2 年度の収入・支出の状況である。

繰り返しになるが、コロナ禍という想定外の状況を踏まえたとしても、雑誌印刷費を当初予算の 90 万円内に抑えれば、前年度繰越金の殆どを食い潰すという状況は変わらないにしても、期末会計を黒字で終えられたのは間違いない。雑誌印刷費については、コロナ禍とは関わりなく、運営委員会での制御下にあるものであり、結果的には 28 巻 1 号・28 巻 3 号でのページ数超過が赤字を招いた大きな要因と考えられる。

なお、現在、学会保有の会計簿上の残額（繰越金）は-48,468 円、実際の残額が-43,184 円と、差額が 5,284 円発生しており（「参考．次年度の雑収入に参入するものについて」参照）、これについては、第 XV 期第 1 年度会計において、雑収入として計上させていただきたい。

(表 1) 2020 年度決算

| ①収入状況      |            |            |           | ②支出状況     |             |            |            |            |          |
|------------|------------|------------|-----------|-----------|-------------|------------|------------|------------|----------|
|            | 適用         | 予算         | 決算        | 差引き       | 適用          | 予算         | 決算         | 差引き (予算超過) |          |
|            | 繰越金        | ¥408,059   | ¥408,059  | ¥0        | 雑誌発行費用 小計   | ¥955,000   | ¥1,117,865 | ¥162,865   |          |
|            | 当該年度会費     | ¥882,000   | ¥630,000  | -¥252,000 |             | 印刷費        | ¥900,000   | ¥993,630   | ¥93,630  |
|            | 過年度会費      | ¥198,000   | ¥96,000   | -¥102,000 |             | 郵送費        | ¥55,000    | ¥124,235   | ¥69,235  |
|            | 翌年度会費      | ¥0         | ¥60,000   | ¥60,000   | ニュース発行費用 小計 | ¥64,500    | ¥63,221    | -¥1,279    |          |
|            | 当該年度購読費    | ¥42,000    | ¥42,000   | ¥0        |             | 印刷費        | ¥7,500     | ¥6,555     | -¥945    |
|            | 過年度購読費     | ¥6,000     | ¥6,000    | ¥0        |             | 郵送費        | ¥57,000    | ¥56,666    | -¥334    |
|            | 翌年度購読費     | ¥0         | ¥0        | ¥0        | 運営委員会費 小計   | ¥94,000    | ¥33,637    | -¥60,363   |          |
|            | 雑誌等売り上げ    | ¥38,000    | ¥4,000    | -¥34,000  |             | 文具消耗品費     | ¥1,000     | ¥737       | -¥263    |
|            | 印税         | ¥0         | ¥0        | ¥0        |             | 交通費        | ¥60,000    | ¥0         | -¥60,000 |
|            | 広告費        | ¥0         | ¥0        | ¥0        |             | 会場費        | ¥30,000    | ¥32,900    | ¥2,900   |
|            | 利息         | ¥1         | ¥3        | ¥2        |             | 資料印刷費      | ¥3,000     | ¥0         | -¥3,000  |
|            | 雑収入・カンパ    | ¥5,000     | ¥7,900    | ¥2,900    |             | 資料郵送費      | ¥0         | ¥0         | ¥0       |
| 収入合計       | ¥1,579,060 | ¥1,253,962 | -¥325,098 |           | 事務局運営費      | ¥2,000     | ¥26,820    | ¥24,820    |          |
| 収入 (繰越金なし) | ¥1,171,001 | ¥845,903   |           |           | 郵送費         | ¥0         | ¥0         | ¥0         |          |
|            |            |            |           |           | 広告費         | ¥10,000    | ¥9,880     | -¥120      |          |
|            |            |            |           |           | 雑費          | ¥5,000     | ¥1,007     | -¥3,993    |          |
|            |            |            |           |           | 総会損失補填      | ¥30,000    | ¥0         | -¥30,000   |          |
|            |            |            |           |           | 2018年度借入返済金 | ¥50,000    | ¥50,000    | ¥0         |          |
|            |            |            |           |           | 学習会補填       | ¥5,000     | ¥0         | -¥5,000    |          |
|            |            |            |           |           | 「70代」発送費    | ¥420       | ¥0         | -¥420      |          |
|            |            |            |           |           | 次年度繰越金      | ¥363,140   | -¥48,468   | -¥411,608  |          |
|            |            |            |           |           | 支出合計        | ¥1,579,060 | ¥1,253,962 | -¥325,098  |          |
|            |            |            |           |           | *参考・支出のみ合計  |            | ¥1,302,430 |            |          |

第 XV 期第 I 年度 (2021 年 04 月 01 日~2022 年 03 月 31 日) の

収入と支出の予算について

収入について

2021 年度の繰越金は、-48,468 円である。以前の同様な事態においては借入によって対応したが、その際の借入金は第 XIV 期において完済している。が、結果的に 5 万円弱の赤字を申し送ることになっている。

会員数は、2020 年度当初は 159 名であり、今期中に退会者 13 名、入会者 9 名がおり、2021 年度当初会員数は 155 名となっている。

2021 年度予算上の会員数は 155 名で、当該年度会費収入は 930,000 円を見込めるが、実際には 2020 年度中に 2021 年度会費を納入した会員が 10 名おり、この 60,000 円を 2020 年

度会計に参入してしまったため、2021 年度会費収入は、年度当初では 870,000 円の見込みとなる。

一方で、未払い分が 52 名あり、この分で 312,000 円の収入が見込まれる。

購読会費は、1 大学より購入中止の連絡があり、6 大学 36,000 円、過年度購読費は 1 大学 6,000 円となっている。

1 機関が納本単位での支払いとなっており、この 3 号分の 6,000 円は「雑誌等売り上げ」に計上している。

上の「決算」で示したように、2020 年度決算において、実際の残額と会計簿残額との間に 5,284 円のズレが有り、この分を、2021 年度予算の「雑収入・カンパ」の費目に計上し、結果としてこの費目の予算を 10,000 円としている。

結果として、2021 年度度予算合計は 1,189,535 円となっている。

#### 支出について

『社会臨床雑誌』29 巻 1 号～3 号の発行分として、印刷費 90 万円、郵送費は 102,000 円を計上している。

『社臨ニュース』は、3 号の発行を想定で、印刷費 8,000 円、郵送費 3,2400 円とし、3 号のうち 2 号は雑誌に同封し郵送料を 1 回分として計上した。また、発送ラベルシートが 5,000 円かかっているため、その節約も考えている。

会場費 36,360 円が計上されているが、子問研事務所の借り賃 (30,000 円) とオンラインテストのために滝野川会館 (6,360 円) の使用料である。

今年度もコロナ禍のため、運営会議はオンライン会議が主になると考えられ、交通費、資料代は 0 円とした。

事務局運営費は、監査用レターパック代 (370 円×4) と、コロナ禍での総会開催となり、緊急時のためのお知らせの葉書代 12,600 円を計上した。

第29回総会(2021年06月19・20日)を滝野川会館で開催予定であるが、コロナ禍の緊急事態宣言下のため会館側から参加人数を半分にしよう要請があり、参加費に増収が望めず、独立採算の総会会計に努力するが総会損失補填として70,000円を計上した。また、学習会に関しては、独立採算とし、赤字を出さないよう務めることを前提に0円計上とした。

以上、2021年度予算における支出は1,173,220円となり、次年度繰越金は16,315円となる。

| 2020年度予算案 |           |           | ②支出状況       |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-------------|-----------|-----------|
| ①収入状況     |           |           | 適用          | 2020決算    | 2021予算    |
| 適用        | 2020決算    | 2021予算    | 雑誌発行費用 合計   |           |           |
| 繰越金       | 408,059   | -48,468   | 印刷費         | 993,630   | 900,000   |
| 当該年度会費    | 630,000   | 870,000   | 郵送費         | 124,235   | 102,000   |
| 過年度会費     | 96,000    | 312,000   | ニュース発行費用 合計 | 63,221    | 40,400    |
| 翌年度会費     | 60,000    | 0         | 印刷費         | 6,555     | 8,000     |
| 当該年度購読費   | 42,000    | 36,000    | 郵送費         | 56,666    | 32,400    |
| 過年度購読費    | 6,000     | 6,000     | 運営委員会費 合計   | 33,637    | 37,360    |
| 翌年度購読費    | 0         | 0         | 文具消耗品費      | 737       | 1,000     |
| 雑誌等売り上げ   | 4,000     | 5,000     | 交通費         | 0         | 0         |
| 印税        | 0         | 0         | 会場費         | 32,900    | 36,360    |
| 広告費       | 0         | 0         | 資料印刷費       | 0         | 0         |
| 利息        | 3         | 3         | 資料郵送費       | 0         | 0         |
| 雑収入・カンパ   | 7,900     | 10,000    | 事務局運営費      | 26,820    | 14,080    |
| 合計        | 1,253,962 | 1,190,535 | 広告費         | 9,880     | 9,880     |
| 収入(繰越金なし) | 845,903   | 1,238,003 | 雑費          | 1,007     | 500       |
|           |           |           | 総会損失補填      | 0         | 70,000    |
|           |           |           | 2018年度借入返済金 | 50,000    | 0         |
|           |           |           | 学習会補填       | 0         | 0         |
|           |           |           | 「70代」発送費    | 0         | 0         |
|           |           |           | 次年度繰越金      | -48,468   | 16,315    |
|           |           |           | 合計          | 1,253,962 | 1,190,535 |
|           |           |           | 支出合計(繰越金なし) | 1,268,696 | 1,173,220 |

## 日本社会臨床学会 会員交流会

新型コロナウイルスの影響下を考慮してオンラインでの会員交流の機会を作ります。お顔合わせの機会にするとともに今後の学習会のテーマなどのアイデアを募ります。

【実施日】2021年11月28日（日）14時～16時

【会場】オンライン 申し込みいただいた方に zoom リンクをお送りします。

【定員】30名程度

【対象】・日本社会臨床学会会員 ・入会を検討している方

【参加費】無料

【申し込み】

下記アドレスまで、①お名前②ご所属（あれば）を本文に明記し、件名「会員交流会 11 月申し込み」としてください。

shakai.rinsho@gmail.com

## 会員の皆様へ メールアドレス登録のお願い

日本社会臨床学会からのメール案内に活用する登録フォームを設置しました。

総会・企画案内等に活用します。下記 QR コードよりご登録のほどよろしくお願ひしいたします。



## 会費納入のお願い

日本社会臨床学会第XV期運営委員会

日本社会臨床学会の活動は、会員の皆様のご納入くださる会費にて賄われています。例年、総会時にご納入くださる会員の皆様も多くいらっしゃいますが、今年度はコロナ禍での総会となり入場制限もありました。そのため会費納入のタイミングを逸したという皆様もいらっしゃるかと思われます。今年度会費未納の会員の方にはお手数をおかけしますが、郵便振替にて以下の口座まで会費の納入をお願いいたします。年会費は6000円です。

郵便振替：00170-9-707357 日本社会臨床学会

(ゆうちょ銀行 店名〇一八 普通預金 0601545)